

- M S 技術研究委員会、20年の歴史 -

奥野年秀（旧兵庫県立公害研究所）、中野 武（兵庫県立健康環境科学研究所センター）

日本水環境学会のM S技術研究委員会は昭和57年（1982年）に日本水質汚濁研究協会の「GC-M S技術研究委員会」として発足した。研究委員会は協会で最初の組織化された全国的な研究グループであり、昭和49年（1974年）以来、環境庁保健調査室（現、環境省環境安全課）から「化学物質の環境汚染に係る調査研究」の委託を受けていた公害及び環境に関する地方試験研究機関の技術者や研究者を中心に運営され、国立公害研究所・国立公衆衛生院・大学の研究者らのバックアップ体制があった。

初代の委員長は吉田多摩夫教授（東京水産大）であり、第1回討論会が第17回水質汚濁学会（1983年）の最終日に開催された。討論会の要旨集は協会で特別に印刷され、会場で配布された、委員会を運営する者の士気が高揚した。特筆すべきは、地方自治体の公害・環境試験研究機関で組織する全国公害研協議会（所長会議）に後援して戴いたことであり、研究委員会の活動がより活発化した。第1回討論会要旨集の表紙参照。

次年度（1983年）に生物膜法技術研究委員会が発足した、第2回討論会（第18回学会、1984年）は、二つの研究委員会の要旨集が1冊に印刷された。

<第1回討論会演題>（1983年）

GC-MS技術研究討論会

①水中有機物検索の前処理法

XAD樹脂／非揮発性物質（児玉：愛知県、尾崎：新潟県）

Purge & Trap樹脂／揮発性物質（奥野：兵庫県）

②水中有機物検索／GC-MS測定の標準化（山本：大阪市）

③化合物環境データベースシステムの開発（溝口：国公研）

<第2回討論会演題>（1984年）

①誘導体化法による水溶性有機物の分析（篠原：北九州市）

②表面電離M S法／TMA超高感度測定法（藤井：国公研）

③水道水（もと水-ル、オズミン）のP&TE/M S応用（梶野：大阪市）

以上の研究成果は、「GC/M S分析システムによる環境水中の化学物質検索」が学会誌（水質汚濁、第7卷9号、530-554、1984）



昭和58年2月24日付
会員登録
東洋大学先生承認

(社)日本水質汚濁研究協会
GC-MS技術研究委員会
全国公害研協議会

に吉田多摩夫先生の巻頭言で特集された。以後20年間には地下水の塩素系溶剤、ゴルフ場から河川水の農薬、廃棄物焼却炉からの飛灰埋立による浸出水のダイオキシン類、環境ホルモンの環境汚染度合や対策評価にM S技術研究委員会で発表された研究成果が応用されてきた。今後、LC-M SやICP-M SやM S-M Sなどの水環境分析への応用研究が必要であり、地方公立試験研究機関の「研究体制の強化」が望まれる。

1997年以来、日本水環境学会の年会（3月）からシンポジウム（9月）として分離したが、当研究委員会の誕生日では、日本化学会の討論会を参考にして年会発表より専門化した濃密な研究発表を志向した。今後、水環境分析の「今日的な課題」の特集を織り込む等、特集では研究発表の時間を画一化しないで自由度を持たせるような、柔軟性も必要ではなかろうか？当研究委員会の発展を期待する次第である。